

降格圏脱出ならず... 最終節に向け課題

駒澤大学0-0国士舘大学

窮地に立たされ沈み込む駒大
(撮影:河田奈津子)

決意不足に苦しめられ、 痛恨の引き分け

20年振りの降格を回避するため、勝利が絶対条件の一戦。試合開始直後から、選手の得点への思いが伝わってくるかのように果敢にゴールへ攻めようとする駒大。国士ゴールに向け果敢に攻め続けた。まず迎えたチャンスは前半18分に起きた。碓井のFKのこぼれ球を奥村がシュートを打つも枠をとらえられず。続く22分、濱田のクロスから最後はまたしても奥村がシュートを放つが、これはわずかに左へ外れる。前半のシュート数は相手を上回ったが、一方負けることは許されない国士大も必死にゴールを守った。激しい攻防戦も堅守の壁を崩すことができないまま前半が終了した。

続く後半は、とにかく点が欲しい駒大に対し国士大の守備が一層厚くなり、シュートまでボールを運べない。そんな中48分、林堂が負傷し一時ピッチから離れるという悲劇が起こり、駒大は一時騒然とする。「(負傷時は)呼吸が出来なくなって苦しくなった。回りの声が微かに聞こえていた」と語った林堂は53分、意地を見せピッチに戻る。その後流れは大きく変わることはなく、懸命に前へ前へボールを送りチャンスを狙い続ける。「一年生は試したわけで

なく、調子が良かったから使った。点が欲しかったので」と話す秋田監督は山本に代わり、初出場の須貝が投入。監督からは、とにかくがむしゃらにやれ!と言われたという須貝だが決定機を決めきれない。

ロスタイムまでセットプレーなどで、ゴールチャンスはあったものの、最後までそのチャンスがゴールに繋がることはなかった。

「点を取れない弱さが出た。(自分自身も)前後半にチャンスがあったのに、決められなかった。」(山崎)。「みんな気持ちがこもっていた点を取らないと試合には勝てない」(濱田)。それぞれの選手が、得点力の無さを痛感した一戦となった。

引き分け以上で降格圏から脱出できる国士大に対し、少なからず勝利が欲しい駒大にとっては痛い引き分けとなった。しかし、主将林堂は、「このメンバーで出来るサッカーを楽しんで喜びを感じ、無駄にしないように最後の試合に臨みたい」と前向きに話す。監督もまた、「今日は得点できなかったことが最大の要因。勝たなければいけないが、現実を受け止めなければいけない。」と、気持ちはすでに次に向かっている。

翌日に控えていた中大が勝利を収めたため、20年ぶりの降格は決まってしまうが、今季最終節となる次節を、駒大らしいサッカーで締めくくりたい。(射手真矢)

11月26日 11:30 駒沢オリンピック公園総合運動場

駒大 0 (0-0) 0 国士大
(11位) (0-1) (9位)

得点者(アシスト)

KOMAZAWA	KOKUSHIKAN
GK①大石健太(2)	GK①本田大雅(3)
DF②砂川太志(4)	DF④矢野 稔(3)
DF③三宅 徹(4)	DF④大久保翼(4)
DF④林堂 真(4)	DF②⑩宮澤 勇樹(3)
DF⑥濱田 宙(4)	DF②⑩瀬川和樹(3)
MF⑤山崎紘吉(4)	MF①①岩崎晃世(4)
MF⑦碓井鉄平(2)	MF⑦佐藤優平(3)
MF⑧奥村 情(3)	MF②⑩橋本拓門(2)
MF①①湯澤洋介(3)	MF③⑤橋 一輝(1)
(83分③磯部裕基(4))	(73分⑩吉野峻光(4))
FW⑩大園祥太(4)	FW③⑥恵津森究(3)
(80分②⑩江川昇吾(4))	(86分②⑩服部平(2))
FW⑫山本大貴(1)	FW⑨金子昌広(3)
(70分⑩須貝 暁(1))	S U B
S U B	GK①山岡哲也(4)
GK③⑥野村政孝(2)	DF⑬朴 成彬(2)
DF③⑤大木 暁(1)	MF①②岩城正明(4)
DF③③小牧成亘(1)	MF②⑨松本和樹(1)
MF①④板倉直紀(1)	FW⑦⑦進藤誠司(1)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	和田三二
[シュート]6:8 [GK]12:15 [CK]6:7 [直接FK]18:15 [間接FK]3:2 [オフサイド]3:2 [主審]秋澤昌治 [観衆]約700人	
警告(C)/退場(S)	
[駒]90+1分 砂川太志(C) [国]90+1分 岩崎晃世(C) [駒]90+5分 須貝 暁(C) [国]90+6分 岩崎晃世(C) ※データの左側が駒大 [国]90+6分 岩崎晃世(S)	